教団新報

定　価　1部180円（本体164円〒共243円）
予約購読料　1年分　〒共　5,350円
紙代のみ　3,750円
振替 00140―9―145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所　日本基督教団
169-0051　東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内　電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人　秋山　徹
編集主筆　嶋田恵悟
印刷所　株式会社きかんし

5期続けて、レポートとオンラインの試験

2022年 秋季教師検定試験

正教師39名、補教師12名、転入1名が受験

2022年秋季教師検定試験が行われた。8月30日よりレポート提出による学科試験、9月14、15日の日程で面接試験を実施した。秋の教師検定試験は正教師受験者が中心となる。正教師受験者は39名、補教師受験者はCコース継続者含め12名、転入審査1名の受験者が与えられた。

当初は対面で教師検定試験を予定していた。しかし7月の委員会の段階で新型コロナウイルス罹患者の急増に鑑み、受験者の安全を考慮し、レポートとオンラインでの実施に切り替えることとなった。これで5期続けてのレポートとオンラインの試験となった。

9月14日、オンラインでの面接試験に先立ち、町田さとみ委員による礼拝が捧げられた。「神の賜物と招きとは取り消されない」とみ言葉に励まされ受験者は個人面接に臨むこととなった。オンラインでの面接でも誠実に試験に臨んできたことがうかがえた。神の召しとして教師として立っていきたいとそれぞれの受験者の言葉として聞けたのも感謝である。

一方で試験そのものの結果は、多くの課題を見ることとなった。

提出試験の「説教・釈義」ではコロナ禍にある現況に触れるものも少なくなかったが、そのことが与えられたみ言葉と必ずしも結びつかないものが多かった。自分の思いを込める説教もあるが、会衆に伝えようとする姿勢に欠けた説教も散見された。コロナ禍で鬱々としてきた受験者の状況もうかがえた。「組織神学論文」では、組織神学的論述のできない論文が多かった。組織神学的思考は、そのまま教会形成につながるものであることをわきまえてほしい。

学科試験では「教憲・教規、宗教法人法」で多くの受験者が及第点に達しなかった。特に教憲・教規を巡って、これが教会の法であることが理解できていないことが見受けられた。教憲・教規の解釈を巡って神学的筋道で理解することを意識していただきたい。「旧約聖書神学」「新約聖書神学」でも聖書の表面的なところをなぞる答案、あるいは偏った聖書箇所をあげる傾向があった。「教会史」はキリスト論論争史を踏まえた聖餐理解を問うたが、歴史的なつながりで思考する弱さが見られた。どの試験も伝道・牧会に従事しながら、時間の制約のあるなかでのレポート作成であったことと思う。しかし参考文献に当たることができたことを踏まえ、もう少し丁寧で詳細な論述が期待された。

個人面接では特に信仰告白、および公同教会の理解を尋ねたが、合同教会との区別のつかないなどその理解は相当不足していることがうかがえる。日本基督教団および個々の教会に仕えていく基盤として公同教会および信仰告白の理解は不可欠である。終末信仰同様、公同教会理解の欠如は伝道献身者としての立ち位置を曖昧にしかねない。主の日ごとの務めが、公同教会の信仰に立った業であることを常に思い起こしてほしい。

教師検定試験終了後、Cコース認定面接、第19回教師検定委員会を開催し、春季試験に備えた。

（清藤　淳報）

神学的に考え、筋道を理解することが課題

講評

今季の教師検定試験は当初、2年半ぶりに対面で行う計画を立てていた。しかし、7月に再び新型コロナウイルス感染症が拡大し、学科試験はレポート、面接試験はオンラインで行われることとなった。このような形の試験は今回で5回目となった。レポートは神学書を参照することができたので、よくまとめられていた。しかし、神学的に考察する思考力に不足が見られた。面接では、なぜ教団の教師となるのかその召命を問うたが、公同教会、教団信仰告白を踏まえて自らの召命を述べる点に不足が見られた。レポート試験、オンライン面接で、どこまで召命、課題点を問うことができたのか、試験を行う側にも課題がある。

受験生の多くがコロナ禍の中で、教会、伝道所、キリスト教学校へ遣わされ、教会、地区の交わりが十分できない閉塞状況で、伝道、牧会をして来た。誠実に試験に臨む姿に触れ、伝道者として召し、遣わされた主の御業を見、畏れと感謝を覚えた。

第41総会期　教師検定委員長　井ノ川　勝

2022年秋季（レポート試験）・正教師検定試験問題

教憲教規および諸規則・宗教法人法

1. 教憲教規における、教会総会と教会役員会の関係について、1000字程度で述べてください。
2. 次の2題について、それぞれ500字程度で答えてください。
   (1)宗教法人である教会が「公告」を行わなければならない事例について述べてください。
   (2)宗教法人である教会が行う「公益事業」について述べてください。

旧約聖書神学

次の2題を、旧約聖書の聖書箇所をいくつか挙げつつ、それぞれ1000字程度で神学的に論じてください。

1. 神の名について
2. 旧約の苦難の意味について

新約聖書神学

以下の2つの問いについて、必要な聖書箇所を挙げながら論述してください（各問1500字程度）。

1. マルコ福音書における「神の子」について
2. パウロ書簡における「神の子」について

教会史

次の問に答えてください（3000字程度）。

◎古代教会におけるキリスト論論争史を論述し、宗教改革者（ルター、ツヴィングリ、カルヴァン）がそれらのキリスト論をどのように受けとめ、聖餐論において展開したかを述べてください。

お知らせ

「教団新報」今号を4982・83合併号とし、次号は、10月29日に発行します。

総幹事　秋山　徹

教師検定試験公告

2023年春季教師検定試験を左記の要領で行います。

一、**受験要綱の申し込み**
受験要綱と教団指定の願書用紙は160円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師（A、B、Cコースの別も）受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。
なお、正教師受験志願者は「教師検定規則第12条②」によるものに限ります。

二、**受験願書の提出**
受験願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。
①**教区締切**　**2022年11月14日（月）**
（教区により締切が早まる場合がありますので、教区事務所に確認してください）
②**教団締切**　**2022年12月14日（水）**
（各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です）
＊受験料は正教師1万3千円、補教師1万円

三、**補教師について**
①「説教」「釈義」の課題テキスト
旧約　エレミヤ書7章1～15節
新約　ガラテヤの信徒への手紙3章1～14節
②コースによって「説教」「釈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱でご確認ください。
③補教師（CⅢコース）の牧会学の課題
『牧会とは何か』について論述してください。
④Aコースについては、教師検定規則第4条第3号にもとづく試験が実施されます。同対象者は、神学校を通して説明をうけ、それにもとづく手続をおこなってください。

四、**正教師について**
受験志願者は、直接教師検定委員会までお問い合わせください。

五、**提出物（説教、釈義、牧会学等）締切について**
当委員会への提出締切日は、**2022年12月16日（金）午前中**必着です。

六、**学科試験と面接試験について**
学科試験は2023年2月21日（火）、面接試験は2月22日（水）、23日（木）に日本キリスト教会館において実施します。
なお、新型コロナウイルス感染状況によっては、レポート試験、オンライン面接に変更することもあります。詳細は受験志願者に通知いたします。

2022年10月1日
日本基督教団教師検定委員会
〒169―0051
東京都新宿区西早稲田2―3―18―31
電話　03―3202―0546

2022年度 ⑤

教区総会報告

奥羽教区

9回のやり取りを行い、郵送で選挙

第77回奥羽教区定期総会は、続くコロナ禍の現状の中、3年連続で書面開催となった。

常置委員会では対面での開催を願って検討を行ってきた。しかし新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、奥羽キリスト教センターでの開催は難しく、また他の広い会場を確保できたとしても審査委員会開催の時間確保や教区事務所機能の移動の難しさなどの問題があった。また総会出席のための県を超えての移動自体が難しい議員も相当数いたことなどから、書面での開催を決断せざるをえなかった。

奥羽教区では書面開催にあたり、そのことの賛否を議決権行使書にて問うてきたが、今回も賛成多数にて承認された後、書面決議用の議案についての議決権行使書を発送することとなった。

教区宣教計画案、経常会計予算案等、議案はすべて承認されたが、今総会において最も大きなことは、郵送による選挙の実施であった。昨年教区三役・常置委員の任期を一年延長したこともあり、今回教団総会議員選挙とあわせて実施された。副議長選挙が決選投票となったこともあり、計9回教区事務所と議員の間で投票用紙のやり取りを行い、最終的な結果が出たのが9月20日となった。その間開票委員の方々と教区事務所スタッフの方々が多くの働きを担ったことを感謝して報告したい。

来年こそ顔と顔を合わせて教区の宣教について共に考え、祈りを分かち合う総会の開催ができることを祈るものである。

三役選挙結果

【議長】小林よう子（八戸小中野）、【副議長】多勢員（五所川原）、【書記】松浦裕介（下ノ橋）

常置委員選挙結果

【教職】中西絵津子（脇本）、森分和基（宮古）、鈴木道也（花巻）

【信徒】遠藤清賢（江刺）、宮腰桂子（鷹巣）、菅生明美（奥中山）

教団総会議員選挙結果

【教職】小林よう子（八戸小中野）、松浦裕介（下ノ橋）、雲然俊美（秋田桜）、鈴木道也（花巻）、江戸清（奥中山）、多勢員（五所川原）、野口忠子（七戸）

【信徒】宮腰桂子（鷹巣）、遠藤清賢（江刺）、佐々木京子（宮古）、秋田順子（青森）、菅生明美（奥中山）、上原惠（三本木）、魚住惠（内丸）

（松浦裕介報）

▼世界宣教委員会・国際関係委員会▲

働きを終えた宣教師4名の報告を聞く

6月3日に第9回世界宣教委員会並びに国際関係委員会をオンライン形式で開催。派遣宣教師の働きを終えた小井沼眞樹子宣教師（ブラジル／1996～2022）、松本章宏宣教師（シンガポール／2005～2022）、長尾有起宣教師（韓国／2015～2022）の報告を聞いた。また8月から約半年、伊勢希教師を短期派遣宣教師としてベルギーのブリュッセル日本語プロテスタント教会へ派遣することを可決した。

続いて8月12日に第10回委員会をオンライン形式で開催。冒頭に働きを終えた山本一宣教師（アメリカ／2013～2022）より報告を聞いた。

西之園路子委員長は、8月29日～9月23日までドイツへ出張し、WCC総会（8／31～9／8）およびEMS（福音連帯宣教会）の50周年記念祝会とProPro委員会に参加、またドイツ・ベルギーの教団派遣宣教師等を問安。

京都教区からの建議「京都教区は教団世界宣教委員会に対し　教団外国籍教師の宗教ビザについて継続的に働きかけ滞在資格と人権の課題に取り組むことを求める件」については、ビザ取得の現状について西之園委員長から京都教区に報告すると共に、教務、教師委員会、教師検定委員会とも情報を共有することとした。エキュメニカル奨学金は残額1名分を来年度に使い切り、その後のこの奨学金の扱いについては、その原資を含め、次期委員会に委ねることとした。

その他、第42総会期への申し送り事項として、教団機構改定について当委員会としての意見を申し入れること、フィリピン合同教会との協力関係についても検討すること等が挙げられた。

当委員会は、派遣宣教師の状況を把握し、必要に応じて面談、語学研修補助、医療補助などを行なっている。また内外派遣宣教師の支援を中心に、世界各国の諸団体との友好、協力関係を維持発展させていく働きを担っている。パンデミックやイデオロギーの対立がクローズアップされる最中、人と人をつなぐ平和を造り出す努力を積み重ねて行きたい。

（近藤　誠報）

▼全国財務委員長会議・予算決算委員会▲

コロナウイルス、各教区の財政面での影響を共有

《全国財務委員長会議》

第3回全国財務委員長会議が、8月23日にオンライン方式により開催された。秋山徹総幹事の挨拶の後、沖縄教区を除く16教区の財務委員長より、各教区の財務状況が報告された。

各教区からの報告を通して、新型コロナウイルス感染症の蔓延が始まって以来、教勢面または財政面で、どのような影響をもたらしているのかが明らかになった。礼拝献金の減少は都市部の大規模教会において顕著であることが報告された。教区財政においては、活動が制限されたこと、オンライン会議が増えたことにより、負担金を減額しても差益が出ている。しかし、喜んではいられない。コロナ前のような活動が再開されたときに、一度下げた負担金を元に戻すことができるのだろうかという不安の声が多く上がっていた。

また各教区ともに教区互助のための資金確保が課題となっている。教会毎に協力の度合いが違う。献金をお願いしても、献金袋を増やせないので牧師のところで止めてしまうという教会もある。ある教区からは、教師謝儀援助に頼らず教師も自由に活動すべきであり、そのような取り組みをしているという実践例も紹介された。従来の献金に対する大きな問題提起と受け止められた。

その後、大三島義孝財務幹事より2021年度決算報告と2022年度の執行状況の報告が、道家紀一総務幹事より2021年度教勢統計の中間報告があった。オンライン礼拝の工夫があり、6000名以上の方が教会に集まらないかたちで礼拝に参加していること、コロナ禍の特徴として特別献金が増えてきているとの報告があった。また宇田真予算決算委員長による2023年度負担金に関する説明、年金局と出版局からの2021年度事業報告ならびに決算報告を受けた。

短い時間であったが、各教区の財務状況を共有し、互いの理解を深め合う大切な場であることが確認できた。

16教区の財務委員長が参加

《予算決算委員会》

8月23日、第12回予算決算委員会が、財務委員長会議に引き続いてオンラインで行われた。主たる議事は2022年度第2次補正予算と、2023年度予算案である。

2022年度第2次補正予算については、出版局の経営コンサルタント料契約延長に伴い、事業活動支出「常議員会費」を360万円増額することを承認した。

2023年度予算案について、事業活動収入の柱となる「教区の負担金」は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し「推定50年基礎データ」で示された2023年度負担金から5％減免する2億2005万円を負担金総額として各教区に割り当てることを承認した。これは、2022年度の教区負担金と比較して、854万1000円の増額となる。また、事業活動支出は、対面での委員会が増えることが予測されるため、コロナ前の2019年度比、40％から60％に戻した。

この予算案における事業活動収入は、2億7575万8000円、事業活動支出は2億7438万6000円で、137万2000円の差益となる。これに投資活動収支差額と予備費を加えると、2023年度予算全体の収支差額は7万2000円となる。何かあれば差損に転じることを含み置く予算編成となっている。

最後に、総幹事住宅の屋根修繕工事が必要となっていることが報告され、予決委員会として収益事業会計より支出することを承認した。

（田口博之報）

公　告

教師検定委員会では、教師検定規則第6条⑥に基づき、同規則第3条6号対象者（所謂Cコース受験者）に対する認定面接を左記のように実施します。

2023年秋季試験以降に新たにCコース受験を志願される方は、本委員会の指定した書類を**2023年1月13日（金）**までにご提出いただき、左記日程の面接にご参加ください。

なお、面接要領・提出書類用紙については、120円切手を同封の上、本委員会事務局に直接お申込みください。

★認定面接

日時　**2023年2月23日（木）午後**

場所　日本キリスト教会館

＊新型コロナウイルス感染状況によっては、オンライン面接に変更することもあります。

なお、認定面接予定者には、書類受付後、案内通知を送付します。

2022年10月1日

日本基督教団教師検定委員会

〒169－0051　東京都新宿区西早稲田2－3－18－31（電話03－3202－0546）

▼教区青年担当者会・教育委員会▲

「青年たちは何を求めている?」、2名が発題

《教区青年担当者会》

第12回教区青年担当者会が9月5日オンラインにて開催された。テーマは前回から引き続き「青年たちは何を求めている?」パートⅡ。増田将平教育委員長の開会祈祷に続き、若い2名の発題者からの報告を受けた。

北海教区宣教部革新部門わかもの担当委員の木村幸牧師(美唄)から「北海教区『わかもの』のコロナ禍の挑戦とこれから」と題し、「中高生オンラインの集い」と「全道教会青年オンラインの集い」をそれぞれ準備し、実践してきた中から見えた課題が伝えられた。

仙台北教会員の三浦洋人さん(同志社大学神学部生)から「持続可能な青年活動に向けて」と題し、独自に行われたアンケートに基づいて、なぜ若者が教会に来ないかの多様な要因と実際に人が集まっている教会の様子や取り組みなどが伝えられた。学生が遠距離の教会に行く際の経済的問題や教会側の対応についても忌憚なく語られた。

両者の発題はコロナ禍を前提としながらも、聴衆が受け止めた課題はその前提に終始せず、普遍的なものであった。すなわち教会に人を迎え入れる姿勢が問われていると感じさせるものだった。若者への対応は若者に任せがちであるが、現代社会にあってあらゆる世代の交流が可能なのが教会の優れた点であるとの指摘もなされた。それこそ若者自身の思いとして、年長者から単に言葉や物をいただくだけでなく、時間や体験の共有によって交流は可能であるし、自分の居場所があると感じさせると伝えられた。

各教区からの青年活動報告は予め文書データによって各参加者に配付され、それらも踏まえつつ一時間のグループディスカッションに移った。オンライン会議はいわゆるあそびが少なく、自由に発言がし難い面がある。4~5名のグループならば皆がミュートを解除したままでも懇談ができ、時間をかけて参加者皆の思いを聞くことができた。

14教区から31名の出席であった。

(飯田敏勝報)

《教育委員会》

今期最後の委員会である第13回教育委員会が9月6日にオンラインで開かれた。報告事項では事務局より2021年度クリスマス献金(4件・合計500万円)が無事送金されたこと、台湾ユースミッションについての現状報告、幼稚園・幼児施設融資金募集などの報告が承認された。

主な協議事項は今年度のクリスマス献金に関連して、「みんなで生きよう」広報誌等の作成状況や教会学校応援セットの募集枠(A聖書・こどもさんびか、B聖書物語は募集枠3教会、Cヒムプレーヤの募集枠は2教会)などが確定した。また2022年の献金先(4件)を決定。海外の献金先は、ウクライナの子どもたちを覚えて認定NPO法人「チャイルド・ファンド・ジャパン」に。国内の献金先としては学校法人アジア学院、北海教区アイヌ民族情報センターとアイヌ奨学金キリスト教協力会、および東北教区放射能問題対策支援室いずみとした。

その他の協議事項は、委員会の前日(9月5日)に行われた第12回教区青年年担当者会「青年たちは何を求めている?」パートⅡを振りかえり、内容も参加者同士が分かち合えた良い会であったとの評価となった。また今年度のキリスト教教育主事認定試験をオンラインによる試験とし、10月の教団新報に公告を掲載する予定となったが、ここ数年受験者がいないことを受け、成り立ちや経緯について改めて振りかえり、今後の課題として共有した。

最後に増田将平委員長よりこの4年間の働きを覚えての謝辞がのべられ、閉会祈祷をもって委員会が閉じられた。

(横山ゆずり報)

▼社会委員会▲

ウクライナ救援募金、国内で活動する支援団体にも

第15回社会委員会を8月23日に委員7名中6名の出席で、ウェブ会議で開催した。大塚啓子委員(目黒原町)による開会礼拝の後、前回議事録を承認。諸報告の中で、特に7月26日の死刑執行に対して社会委員長名で内閣総理大臣と法務大臣宛に抗議文を送ったことについて、国が死刑執行するたびごとに抗議と執行停止を求める要請を出しているものの、このことが公にされていないことから、今後は『教団新報』にその事実を記載し、教団ホームページに全文を掲載することを確認した。また、8月1日には「安倍晋三元首相の『国葬』が行われることを憂慮し、撤回を求める声明」を社会委員長名で、さらに8月8日には「国会議員の靖国神社参拝に憂慮する声明」を宣教委員会委員長と社会委員長の連名で、いずれも教団ホームページに発表したことの報告、日本キリスト教社会事業同盟、日本キリスト教保育所同盟の報告を受けた。

前回委員会で承認し全国の教会に周知した「ウクライナ救援募金のお願い」の延長(12月末まで)に伴い、献げられた募金をウクライナ周辺国での避難民支援活動を行っているACTアライアンスに加えて、日本国内への避難民支援を行っている日本YMCA同盟にも送ることを決議した。

一般財団法人日本総合研究所による教団の分析報告と提言(「日本基督教団『メディア戦略策定・教団スタディオ設置支援プロジェクト』報告書」2021年3月)を受けて、教団の宣教をどうとらえていくのか、当委員会にも宣教委員会から協議の要請があり、意見を出し合った。

その他、『社会委員会通信』の10月発行、次期委員会での扱いになるが2022年度社会福祉施設援助申請の実務を進めることを確認して、今総会期最後の委員会を閉じた。

(髙橋真人報)

声　明

内閣総理大臣　岸田文雄殿
法務大臣　古川禎久殿

死刑執行を繰り返さないよう要望します

私たちは、7月26日に法務大臣が氏名を公表し、東京拘置所の加藤智大氏の死刑を執行したことに抗議し、死刑執行を繰り返さないよう強く要望いたします。

日本基督教団は、1982年第22回総会において、死刑執行の中止を求める声明を採択し、死刑制度の見直しを願い、死刑執行の都度には抗議声明を出し、繰り返すことがないように要請してまいりました。しかし、死刑執行がなされました。まことに遺憾です。

人命を損なう非人道的行為は、犯罪によるものはもちろん、たとい法の執行によるといえども許されるべきではありません。犯罪による被害者やそのご家族のやり場のない深い悲しみや怒りまた恐怖に、心から同情し、共感いたします。それ故にこそ、加害者の命を死刑によって奪うことでは真の解決にはならず、悔い改めによる新生と心からなる謝罪を通して和らぎへと至ることこそ、真の慰めとなることを信じます。

どのような人でも、その人命が尊重され、一人一人の人権が守られる社会を作ることこそ私たちの願いであり、その実現のために祈りかつ努める所存です。政府もまた、これをなすべき急務であると心得、より一層の努力を傾注されますよう、期待してやみません。

2022年7月26日

日本基督教団社会委員会　委員長　森下　耕

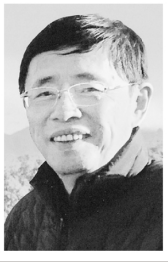
事務局報

遠藤　勇(希望ヶ丘教会担任教師)

22年7月10日逝去、90歳。新潟県生まれ。57年同志社大学大学院修了。同年より伊丹、阿倍野、希望ヶ丘教会を牧会。遺族は妻・遠藤茂子さん。

金城重明(隠退教師)

22年7月19日逝去、93歳。沖縄県生まれ。55年青山学院大学卒業。同年より糸満、首里教会を牧会し、沖縄キリスト教短期大学に務め、那覇中央教会を経て08年隠退。遺族は妻・金城恵美子さん。



久保島泰(東大宮教会担任教師)

22年8月21日逝去、64歳。長野県生まれ。96年東京神学大学大学院修了。同年より南国教会を牧会し、女子聖学院中学高校に務め、信濃町、伊豆八幡野、東大宮教会を牧会。遺族は妻・久保島理恵さん。

桃井綾子(隠退教師)

22年8月1日逝去、90歳。広島県生まれ。55年同志社大学卒業。64年より周陽、久ヶ原、千葉海浜教会を牧会し、13年隠退。遺族は夫・桃井完二さん。

藤原史朗(無任所教師)

22年8月12日逝去、78歳。兵庫県生まれ。71年同志社大学大学院修了。83年より神戸雲内、西宮聖光教会を牧会。遺族は息・藤原寅次郎さん。

野村　喬(隠退教師)

22年8月12日逝去、95歳。山口県生まれ。54年日本聖書神学校卒業。同年より大竹、坂上伝道所を牧会し、酪農学園に務め、北発寒(現新発寒)、江差教会を経て12年隠退。遺族は妻・野村永子さん。

佐野嘉寿雄(隠退教師)

22年8月22日逝去、84歳。満州生まれ。63年日本聖書学校卒業。同年より松山榎町、岩城、西條、八雲教会を牧会し、12年隠退。遺族は妻・佐野達子さん。

佐藤元洋(無任所教師)

22年6月12日逝去、79歳。北海道生まれ。83年受允。遺族は妻・佐藤順子さん。

教師異動

甲山　就(代)塩見和樹
芦屋岩園辞(主)市川　哲
〃　就(代)土井健司
伊丹　就(担)山本　一
美祢　就(代)菊田行佳
ブリュッセル日本語プロテスタント教会
就(外)伊勢　希
深谷　辞(主)保母光彦
〃　辞(担)法亢聖親
〃　就(主)法亢聖親
聖学院大学
就(兼教)木村太郎
笠岡　辞(主)阪西恵理子
〃就(代)三浦きょうこ
梅花中学高校
就(教)山口教子
梅花　就(兼担)山口教子

教師隠退

岩本和則、小林美恵子、藤崎裕之、笠原義久、神山繁實、保母光彦

教師退任

中川知子

教師改姓

坂井悠佳(→和寺)

教会所在地変更

手宮　〒047－0044
小樽市梅ケ枝町48－25

教会通信先設定

左内坂　〒359－0037
所沢市くすのき台3－15－9　小畑ハイツ103　宮島星子方

2021年東北地方地震
被災教会会堂等再建支援委員会

東北教区・関東教区 被災教会の声

（オンライン訪問）

陸前古川教会に伺って

7月25日午後、宮城県大崎市にある陸前古川教会の関純一牧師と伊藤牧子長老に、オンラインでお話を伺った。東北地方地震被災教会会堂等支援委員会より、河田直子、黒沼宏一各委員、篠浦千史委員長、そしてオブザーバーとして高橋真人東北教区議長、道家紀一担当幹事、星山京子職員が参加した。

陸前古川教会は、東北新幹線と陸羽東線の交差する所にある古川駅にほど近い、町の中心部にある。教会は創立137年、付属幼稚園は来年創立百年を迎え、今も宗教法人として活動している。宮城県の内陸部に位置する教会は、古くからこの地方の伝道を担う重要な拠点である。

まず、地震発生時の3月16日の状況を伺った。その日、関牧師は教会員の安否確認を優先し、教会の建物に大小の亀裂があることに後から気づいたという。東日本大地震以降、何度も地震があったので、この亀裂がいつできたものかは分からないが、今まで見たこともない所に亀裂ができていた。2008年に会堂を建て替えていたので耐震工事はなされており、これまで大きな被害を感じずにくることができたが、繰り返される地震によって亀裂が広がっていったものと思われる。これまでも被害はあったが、支援の申請はせずにきた。行政の罹災証明で軽微であるとの診断を受けたため、会堂共済組合では地震見舞金支給対象外となってしまった。

今回も礼拝を行うのには差し障りはなかったものの、礼拝堂、保育室、1階にある部屋の内壁の痛みはひどく、手を入れる必要が生じた。ただ、礼拝堂は天井が高く、その内装工事には足場が必要ということで、見積りをしてもらったところ総工費168万3000円とのこと。そのため今回初めて当委員会に150万円の支援を申請することにした。当委員会はそれを全額承認し、幼稚園が夏休みとなる8月に工事が行われることとなった。

現在の礼拝の様子を伺うと、昨年はコロナ禍から命を守ることを優先し、短縮礼拝にし、来られる人のみで行ったが、最近は通常に戻しているとのこと。讃美歌は1番のみとし、7月から聖餐式、教会学校を再開した。その矢先の第7波の到来である。東北地方でも昼は30度くらいまで気温が上がるので、エアコンを入れて換気をよくして礼拝している。現住陪餐会員29名のうち礼拝出席は12～13名くらいだという。

関牧師はこの地に赴任して18年になるが、近年地震だけではなく、水害被害も繰り返されているという。7月にも豪雨に見舞われたが、教会は比較的高い所にあるので、被害はなかった。けれど、今後必要に応じて近隣の方々の避難場所としての役割を教会は担っていかねばならないと思っていると言われた。この地に陸前古川教会があることの意味は大きいと改めて思う。関牧師はじめ教会の方々が主の栄光を現すために礼拝し続ける環境を整えていただくお手伝いができることの大切さを思った。

（篠浦千史報）

上、外観

足場を組んだ礼拝堂

東北地方地震被災教会支援募金

郵便振替口座
◎口　座　名　日本基督教団
◎口座番号　00140-9-145275
通信欄に「東北地方地震被災教会支援」とご記入ください。

◆在日韓国朝鮮人連帯特設委員会◆

「全国キリスト教学校人権教育セミナー」の報告を聞く

第8回在日韓国朝鮮人連帯特設委員会が8月29日、オンラインで開催された。

報告は①8月16～18日に行われた第32回全国キリスト教学校人権教育セミナー（主会場：日本基督教団神戸聖愛教会とオンライン併用）に土井しのぶ委員が出席して、その報告がなされた。テーマは「尊厳をとり戻す！～大切なあなたとともに」。このセミナーが開催されるためには各年毎に現地実行委員会が組織され、現地の人たちの寄り集まりで委員会が編成されており、テーマを決めて、内容（基調説明、礼拝、奏楽、講演、証言）、募集、会計、会場、オンライン、また資料（プログラム）の作成等、とても丁寧によく準備されていたことが報告された。

②8月に「外国人住民基本法と人種差別撤廃基本法」の制定を求める署名用紙を全国の教会・伝道所に送ったことが星山京子担当職員より報告がなされた。

協議事項

①今後の委員派遣の件
◎来年1月に開催される予定の外キ協全国協議会に関しては、次期委員が組織される前のことになるので、現委員の宮本義弘委員長を派遣する。

②次期委員会への申し送り事項
◎当委員会が1984年日本基督教団と在日大韓教会との宣教協約に基づいて発足した。
◎任務については、在日韓国朝鮮人の人権問題に関わる社会活動を行うこととし、主に「外キ協（外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト者連絡協議会）」に関係する集会への委員の派遣、また在日大韓基督教会付属のRAIK（在日韓国人問題研究所）が関わる集会や全国キリスト教学校人権教育研究協議会主催の人権セミナーに連帯していくこと。
◎現在の委員数は減らさず、対面の委員会を年1回開催し、その他の委員会はオンラインで開催することを提案。
◎在日に関する学習会等することを提案。

（豊川昭夫報）

ひと人とき

荒川　朋子さん

「朝、種を蒔け」

西那須野教会員

戦争責任を重く受け止め、主にアジア・アフリカから農村の指導者を招き、自給自足の生活をしながらリーダー育成を行うアジア学院。荒川朋子さんは、2015年から校長として学院を支えている。

群馬県で生まれ、中高と新島学園に通ったことが、キリスト教との出会い。聖書の物語に触発され、高校を卒業する際に高崎教会で受洗した。

国際基督教大学で言語学を学んでいたが、徐々に関心を社会学に向けて行く。自らの進路を求めて祈る中、「真実に触れていたい」との思いを与えられ、教育の道を志した。

中学・高校で英語の講師をした後、2年間、アメリカの大学院に留学、農村社会学を専攻した。留学中にアジア学院インターン募集の広告を目にする。かつてワークキャンプで訪れ、「いつか戻るところ」と感じていたという。一時帰国して3か月程、インターンとして生活した。この時、スリランカ人のルームメイトが、貧しい中で、さらに貧しい人々のために自らを献げる姿に接し衝撃を受けた。ここで働きたいとの思いを強くし、自分を雇って欲しいと学校に手紙を書いたという。

東京で働く夫の理解を得、生後4か月の娘と二人で職員住宅に住み始めた。「戦争、貧困、差別など壮絶な経験をしながら、なおも謙虚に、また一生懸命に生きる人々が生み出すエネルギーがここには溢れている。そこに自分も触れていたいと思った」と振り返る。

「種はその姿からは想像が出来ない程に大きく育つ。種には神さまの思いが込められており、人間は丁寧に蒔き育てる責任がある。この神さまとの協働作業は食べ物でも人間でも同じ」と語る荒川さん。「朝、種を蒔け、夜にも手を休めるな」（コヘレト11・6）との御言葉に押し出されて、今日も種を蒔き続ける。